stcli node コマンド

- stcli node コマンド，2 ページ
- stcli node add コマンド，4 ページ
- stcli node discover コマンド，6 ページ
- stcli node disk コマンド，8 ページ
- stcli node disks コマンド，9 ページ
- stcli node identify コマンド，10 ページ
- stcli node info コマンド，11 ページ
- stcli node list コマンド，12 ページ
- stcli node maintenanceMode コマンド，15 ページ
- stcli node remove コマンド，16 ページ

stcli node コマンド

ストレージ クラスタ ノードで実行される操作。

（注） 競合する操作を同時に実行しないでください。たとえば、次のように、ノードの追加とノードの削除を同時に実行しないでください。`stcli node add --node-ips NODEIPS remove --id-1 ID1`

stcli nodes [-h] {discover | list | info | identify | disks | disk | add | remove | maintenanceMode}

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
add	いずれか 1 つが必須。	ストレージ クラスタにノードのセットを追加します。
discover	いずれか 1 つが必須。	このノードと同じサブネットで検出可能なストレージ クラスタ ノードをリストします。
disk	いずれか 1 つが必須。	ノード内の物理ディスクを検索します。
disks	いずれか 1 つが必須。	ストレージクラスタ ノードの物理ディスクに関する情報を提供します。
identify	いずれか 1 つが必須。	ノードを識別するノード ビーコンをオン/オフにします。
info	いずれか 1 つが必須。	指定されたストレージクラスタ ノードに関する情報を提供します。
list	いずれか 1 つが必須。	ストレージクラスタ内のストレージクラスタ ノードをリストします。
maintenanceMode	いずれか 1 つが必須。	メンテナンス モードを開始または終了します。
remove	いずれか 1 つが必須。	ストレージ クラスタからノードを削除します。

コマンド デフォルト

なし。いずれか 1 つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン

`stcli node` コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli node add コマンド

指定されたノードをストレージ クラスタに追加します。

（注） `stcli node add` コマンドは、ストレージ クラスタがオンラインで正常な状態であるときにのみ使用してください。

競合する操作を同時に実行しないでください。たとえば、次のように、ノードの追加とノードの削除を同時に実行しないでください。`stcli node add --node-ips NODEIPS remove --id-1 ID1`

stcli node add [-h] --node-ips NODEIPS [NODEIPS . . .] [--controller-root-password CONTROLLERPASSWORD] [--esx-username ESXUSERNAME] [--esx-password ESXPASSWORD] [--dryrun]

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--node-ips NODEIPS [NODEIPS . . .]	必須作業です。	ストレージ クラスタに追加するノードの IP アドレス。
--controller-root-password CONTROLLERPASSWORD	これはオプションです。	追加したコントローラのルート ユーザのパスワード。
--dryfun	これはオプションです。	入力パラメータを検証するだけです。
--esx-username ESCUSERNAME	これはオプションです。	ESX 管理者のユーザ名。
--esx-password ESXPASSWORD	これはオプションです。	ESX 管理者のパスワード。

コマンド デフォルト

なし。ノードの識別子は必須です。

使用上のガイドライン

`stcli node add` コマンドでは、`--node-ips` を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

（注） ストレージ クラスタに新しいノードを追加する場合に、ストレージ クラスタが領域不足の状態であると、ストレージ クラスタが自動的に再調整されます。そうでない場合、再調整が毎晩スケジュールされます。

stcli node discover コマンド

このノードと同じサブネットで検出可能なストレージ クラスタ ノードをリストします。

stcli node discover [-h]

コマンド デフォルト

なし。他にパラメータはありません。

使用上のガイドライン

ストレージ クラスタに対して `stcli node discover` コマンドを実行します。

例

```
# stcli node discover
state:
storfsIp:
  addr:
  stService:
  gateway:
  subnetMask:
  method:
host:
  state:
  about:
    serviceType:
    instanceUuid:
    name:
    locale:
    serialNumber:
    apiVersion:
    modelNumber:
    build:
    fullName:
    productVersion:
  stctlvm:
    name:
    ip:
    guestHostname:
    storageNetworkIp:
    moid:
    role:
    entityRef:
      type:
      id: v
      name:
    version:
    passthrough:
    guestState:
    mgmtNetworkIp:
  name:
  ip:
    addr:
    stService:
    vlanId:
    gateway:
    subnetMask:
    method:
  moid:
  ipmiSettings:
    addr:
    stService:
    gateway:
```

```
    subnetMask:
    method:
  ioVisor:
    about:
      serviceType:
      instanceUuid:
      name:
      locale:
      serialNumber:
      apiVersion:
      modelNumber:
      build:
      fullName:
      productVersion:
    state:
  bootTime:
  entityRef:
    type:
    id:
    name:
  vMotionIp:
    addr:
    vlanId:
    gateway:
    subnetMask:
    method:
  enclosureSerialNumber:
entityRef:
  type:
  id:
  name:
progress:
```

stcli node disk コマンド

ノード内の物理ディスクを検索します。

stcli node disk [-h] {--id ID | --ip NAME} [--lighton | lightoff]

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--id ID	いずれか 1 つが必須。	ストレージクラスタ ノードの一意の ID 番号。ID は、`stcli cluster info` コマンドでリストされます。
--ip NAME	いずれか 1 つが必須。	ストレージ クラスタ ノードの IP アドレス。IP は、`stcli cluster info` コマンドで `stNode` フィールド `NAME` の下にリストされます。
--lighton	これはオプションです。	ディスク上の ID ライトをオンにします。
--lightoff	これはオプションです。	ディスク上の ID ライトをオフにします。

コマンド デフォルト

なし。いずれか 1 つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン

`stcli node disk` コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli node disks コマンド

ストレージ クラスタ ノードの物理ディスクに関する情報を提供します。

stcli node disks [-h] {--id ID | --ip NAME}

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--id ID	いずれか 1 つが必須。	ストレージクラスタ ノードの一意の ID 番号。ID は、`stcli cluster info` コマンドでリストされます。
--ip NAME	いずれか 1 つが必須。	ストレージ クラスタ ノードの IP アドレス。IP は、`stcli cluster info` コマンドで `stNode` フィールド `NAME` の下にリストされます。

コマンド デフォルト

なし。いずれか 1 つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン

`stcli node disks` コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定します。

stcli node identify コマンド

ノードを識別するノード ビーコンをオン/オフにします。

stcli node identify [-h] --ipmiIp IPMIIP [--interval INTERVAL] [--user USER] [--password PASSWORD]

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--ipmiIp IPMIIP	必須作業です。	IPMI IP アドレス
--interval INTERVAL	これはオプションです。	ビーコンをオンにするまでの秒数。指定しいないと、ビーコンはオフになります
---user USER	これはオプションです。	IPMI 管理ユーザ名
---password PASSWORD	省略可能、プロンプト表示	IPMI 管理ユーザ名。 推奨：このコマンドではパスワードを含めないでください。プロンプトに応答してください。

コマンド デフォルト

なし。

使用上のガイドライン

`stcli node identify` コマンドでは、2 つのダッシュ（--）で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた位置指定引数を 1 つ以上任意に指定できます。

『Cisco HyperFlex Systems Upgrade Guide』を参照してください。

stcli node info コマンド

指定されたストレージ クラスタ ノードに関する情報を提供します。

stcli node info [-h] {--id ID | --ip NAME}

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--id ID	いずれか 1 つが必須。	ストレージクラスタ ノードの一意の ID 番号。ID は、`stcli cluster info` コマンドでリストされます。
--ip NAME	いずれか 1 つが必須。	ストレージ クラスタ ノードの IP アドレス。IP は、`stcli cluster info` コマンドで `stNode` フィールド `NAME` の下にリストされます。 `--ip` オプションは、現在サポートされていません。
--summary	これはオプションです。	概要のみを表示します。

コマンド デフォルト

なし。いずれか 1 つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン

`stcli node info` コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli node list コマンド

ストレージ クラスタ内のノードをリストします。

stcli node list [-h] --summary

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--summary	これはオプションです。	概要のみを表示します。

コマンド デフォルト

なし。

使用上のガイドライン

`stcli node list` コマンドを実行し、[] で囲まれた引数を任意に含めることもできます。

例

```
# stcli node list
----------------------------------------
upgradeState:
state:
storfsIp:
  addr:
  stService:
  vlanId:
  gateway:
  subnetMask:
  method:
pNode:
  about:
    serviceType:
    instanceUuid:
    name:
    locale:
    serialNumber:
    apiVersion:
    modelNumber:
    build:
    displayVersion:
    fullName:
    productVersion:
  retired:
  compression:
  ip:
  dedup:
  nsPrimary:
  dataWriteThruEnabled:
  state:
  bootTime:
  master:
  entityRef:
    type:
    id:
    name:
  version:
```

```
    lastModifiedTime:
    name:
  host:
    state:
    about:
      serviceType:
      instanceUuid:
      name:
      locale:
      serialNumber:
      apiVersion:
      modelNumber:
      build:
      fullName:
      productVersion:
    stctlvm:
      name:
      storageClusterIp:
      ip:
      guestHostname:
      mgmtClusterIp:
      storageNetworkIp:
      moid:
      role:
      entityRef:
        type:
        id:
        name:
      version:
      passthrough:
      guestState:
      mgmtNetworkIp:
    name:
    ip:
      addr:
      stService:
      vlanId:
      gateway:
      subnetMask:
      method:
    moid:
    ipmiSettings:
      addr:
      stService:
      gateway:
      subnetMask:
      method:
    ioVisor:
      about:
        serviceType:
        instanceUuid:
        name:
        locale:
        serialNumber:
        apiVersion:
        modelNumber:
        build:
        fullName:
        productVersion:
      state:
    bootTime:
    entityRef:
      type:
      id:
      name:
    vMotionIp:
      addr:
      vlanId:
      gateway:
      subnetMask:
```

```
    method:
  enclosureSerialNumber:
entityRef:
  type:
  id:
  name:
upgradeVersion:
----------------------------------------
```

stcli node maintenanceMode コマンド

ストレージ クラスタ内の ESX サーバを HX メンテナンス モードにします。

stcli node maintenanceMode [-h] {--id ID | ip NAME} --mode MODE {enter | exit} [--timeout TIMEOUT]

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--id ID	いずれか 1 つが必須。	ストレージクラスタ ノードの一意の ID 番号。ID は、`stcli cluster info` コマンドでリストされます。
--ip NAME	いずれか 1 つが必須。	ストレージ クラスタ ノードの IP アドレス。IP は、`stcli cluster info` コマンドで `stNode` フィールド `NAME` の下にリストされます。
--mode MODE	必須作業です。	`enter` に設定すると HX メンテナンス モードを開始し、`exit` に設定すると終了します。
--timeout TIMEOUT	これはオプションです。	HX メンテナンス モードのタイムアウトを秒単位で設定します。

コマンド デフォルト

なし。いずれか 1 つのオプションが必須で、`--mode` タイプも必須です

使用上のガイドライン

`stcli node maintenanceMode` コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかと `--mode` タイプを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli node remove コマンド

指定された最大 2 つのノードをストレージ クラスタから削除します。

（注） 競合する操作を同時に実行しないでください。たとえば、次のように、ノードの追加とノードの削除を同時に実行しないでください。`stcli node add --node-ips NODEIPS remove --id-1 ID1`

stcli node remove [-h] {--id-1 ID1 | --ip-1 NAME1} [{--id-2 ID2 | --ip-2 NAME2}] [-f]

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--id-1 ID1	いずれか 1 つが必須。	ストレージクラスタ ノードの一意の ID 番号。ID は、`stcli cluster info` コマンドでリストされます。
--ip-1 NAME1	いずれか 1 つが必須。	ストレージ クラスタ ノードの IP アドレス。IP は、`stcli cluster info` コマンドで `stNode` フィールド `NAME` の下にリストされます。
--id-2 ID2	これはオプションです。	ストレージクラスタ ノードの一意の ID 番号。ID は、`stcli cluster info` コマンドでリストされます。
--ip-2 NAME2	これはオプションです。	ストレージ クラスタ ノードの IP アドレス。IP は、`stcli cluster info` コマンドで `stNode` フィールド `NAME` の下にリストされます。 `--ip` オプションは、現在サポートされていません。
-f, --force	これはオプションです。	ストレージクラスタ ノードを強制的に削除します。

コマンド デフォルト

なし。いずれか 1 つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン

`stcli node remove` コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、2 番目のノードの IP 情報や [] で囲まれた引数を任意に指定できます。

- ストレージ クラスタからノードを削除する前に、DRS が有効になっていることを確認します。DRS は、電源がオンの VM だけを移行します。
- ネットワークに電源がオフの VM がある場合には、それを手動でストレージクラスタに移行する必要があります。そうしないと、ノードを削除した後で、その VM にアクセスできなくなります。
- DRS が有効でない場合は、手動で VM を移行してください。
- ノードを削除するには、ストレージクラスタが正常であり、ノードを削除しても使用できるノードの数が 3 つを下回らないようにする必要があります（下回ると、ストレージクラスタが正常な状態ではなくなります）。
- ノードは、5 つ以上のノードがあるクラスタから一度に 2 つまで削除できます。